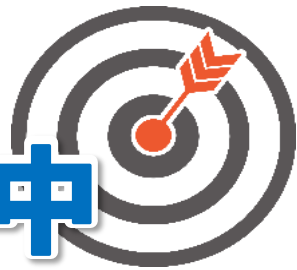


2022 ズバリ! 的中



日本史

名古屋大学

原敬立憲政友会内閣の普通選挙に対する姿勢と 衆院選挙法改正の内容が的中

入試問題

前期日程

日本史 問題Ⅳ 問2

日本史 問題Ⅳ

近現代の社会運動・社会問題に関する次の史料・文章を読んで、以下の問いに答えよ。(史料は、一部省略したり、書き改めたりしたところもある。)

A 歴代内閣中には随分無智無能の内閣もあつたが、①現内閣の如く無智無能なる内閣はなかつた。彼等は米価の暴騰が如何に国民生活を脅かしつつあるかを知らず、これに対して根本的の救済法を講ぜず、甚しきに至つては応急の救済法すらも施し得ずして、食糧騒擾の責を②にこれが報道の責に任じつつある新聞紙に嫁し(注1)、これに関する一切の記事を当分安寧秩序に害ありとして、掲載禁止を命ずるが如き、誰かこれを無智無能と云はざるべき。彼等は新聞紙に籍口令(注2)を施し、これが報道を禁止だにすれば、食糧騒擾は決して伝播せざるが如くに思惟(注3)して居る。其無智なる唯々采れるより外はない。

「新愛知」1918(大正7)年8月16日

B 吾輩は、世人が今回の事件を以て、単に米価問題と見做さずして、それは(注4)日本全国に弥漫(注5)せる経済的弱者の不平が、③米価問題とて(注6)具体的の形態を以て爆発したるに過ぎざるものと観念し、所謂社会問題が今日の日本に於て、如何に現実の問題と為りつつあるかを、十二分に看取る所あらんを希望する。

「東京朝日新聞」1918(大正7)年8月23日

(注1)嫁し … 責任や罪などを他人に押しつける。

(注2)籍口令 … ある事柄に関する発言を禁じること。

(注3)思惟 … 考えること。思うこと。

(注4)そは … それは。

(注5)弥漫 … 広がり満ちること。

(注6)てふ … ~という。

問1 Aは、政府が「食糧騒擾」に関する新聞報道を禁止したことに対して、「新愛知」の桐生悠々が執筆した抗議の新聞記事である。下線部①について、ここで批判されている「現内閣」の総理大臣の名前を答えよ。また、「現内閣」が新聞統制に至つた、1918年の「食糧騒擾」の特徴について述べよ。

問2 「食糧騒擾」の責任をとって「現内閣」が退陣した後、立憲政友会総裁の原敬を首班とする本格的な政党内閣が成立し、普選運動が高まる中で衆議院議員選挙法を改正した。この時の改正内容について、普通選挙制度に対する原首相の姿勢を踏まえて、説明せよ。

問3 Bは、「食糧騒擾」を受けて経済学者の河上肇が新聞に連載した「米価問題」と題する論評の一部である。ここで河上は社会問題が現実の問題となりつつあると論じているが、彼が考える日本の社会問題とは何か。また、それがこの時期の日本で顕在化した背景について、考えられるところを述べよ。

河合塾

直前講習 名大日本史テスト 第2講 問題Ⅲ 問1

日本史 問題Ⅲ

次の史料は「婦人を社会的に活動せしめよ 婦人参政論の台頭」と題する『東洋経済新報』大正13年7月5日号掲載の「社説」の一節である。これを読んで、以下の問いに答えよ。(史料は、一部書き改めたりしたところもある。)

新聞紙の記す所によれば、政友本党の顧問中橋徳五郎氏は、婦人を加えざる普選は、真の普選にあらず、今日の我が重大なる時局に処するがためには、男女を論ぜず、ことごとく参政権を賦与し、国民一致非常の覚悟を以て困難に当る工夫をせねばならぬと論じつつある由である。もし真にこれが氏の意見として、而して氏および政友本党がその実現に奮進するとせば、国家のため大慶至極、また政友本党のためにも、その創立匆々に受けたる反護憲の汚名を雪ぐに足るといわねばならぬ。かつて聞く所によれば、政友会の故総裁原敬氏もまた、時機を見て、世のいわゆる普選の主張を自党の手に奪い、婦人にまで参政権を掲げた案として、これを提出する計画をひそかに抱いた。それを或る場合に、或る人に洩したということである。①彼は普選の看板を他党に奪われ、常にこの問題について、政友会が受身の立場にあるを苦痛とした。この不利を盛り返し、政戦上防禦から攻勢に転ずるには、他党が男子普選で夢中になれる意表に出て、男女普選を提唱するほかないと考えたらしい。中橋氏の意またここにあるか。果してしからば②最近の総選挙において政友本党が惨憺の敗戦をし、失意の境に立てることも、全然無意味には終らない。政戦上不利の立場を救うため、婦人参政を唱うといえ、動機はなほ不純なる如きも、しかし艱難に会して奮奮せりと見れば、敢えて咎むるに及ばない。社会の事は、多くかくの如くして進歩するのである(このほか衆議院には、この際普選を婦人にまで拡張すべしとする論が少なくないと伝う。③果してしからばいよいよ我が国も、男子普選提唱の時代を去って、男女普選要求の時期に入れるものと考えらるる)。

問1 下線部①に関連して、普選運動の高まりに対し原敬内閣はどのように対応したか、普選運動に対する態度も含めて具体的に説明せよ。